く、おはなしを聴くように自然と学びが進む感じです。

例えば私のクラスでは、「足す足す国の靴屋さんが毎日靴を1足ずつ作ります。1日めは、1足」と語りながら、ノートに1足の靴を描き、数字の2を書きます。2日めは「足す足す国の靴屋さんが毎日靴を1足ずつ作ります。2日めは、2足の靴」と語り、2足の靴を描き、2＋2＝4と書き、12日めまでの絵と足し算をノートに書きます。

翌日のエポックは、「足す足す国の妖精さんが毎日クローバーを1本ずつ摘んできます」と語り、三つ葉のクローバー1本（葉っぱ3枚）を描き、3と書きます。2日めは2本のクローバーを描き、3＋3＝6と書く。このように、子どもはおはなしの世界に浸りながら算数を学んでいきます。低学年の間は、王国が舞台になったり、森の中の動物や小人さんが出てくるおはなしの中で算数に取り組んでいくので、楽しんで活動しながら学びに向き合っていると思います。

B：（ノートを見せてもらい）かわいらしいですね。楽しんで学ぶ様子が目に浮かびます。このゆったりした授業は何年生くらいまで続くのですか？

T：9歳ごろに子どもは客観性を持ち始めるといわれていて、私たちはこの時期の子どもの様子を「ルビコン川を渡る」と表現しています。それまで「世界といっしょ、みんなといっしょ」という感覚だったのが、周りを客観的に見始めるようになることで世界や周りとの距離を取り始めます。自我の目覚めの始まりとも捉えられています。個人差はありますが、だいたい4年生ごろから、天使や小人さんの話は通用しなくなっていきます。

ルビコン期を越えた子どもにとって、人間としてよりよく成長しながら生きていくことの助けとなるようなテーマになっていきます。

成長段階において一番良い時期に一番適したテーマを与えることで、旬なものとして受け取れるのではないでしょうか。

学年が上がるにつれて思考が発達していくので、高学年になるにつれて論理的な思考を育てるような授業内容へと変化していきます。

B：子どもの発達に応じた学習内容を、より適切な時期に、子どもの内側の成長にあわせて学べるように工夫されているのですね。

エポック授業が、子どもの成長過程に寄り添って12年間の総合的なカリキュラムとして構成されていること、105分間という長い時間は、呼吸をするように「吐く」「吸う」のリズムで心地よく学びに向かえるよう配慮され、「意志」「思考」「感情」の調和を目指した授業構成であること、また、毎日の繰り返しが積み重ねとなって、学びが深まっていくことが特徴だとよくわかりました。

今日は、ありがとうございました。

インタビュアー&ライター
シュタイナー学園保護者／馬場愛子

Kyoko Taniguchi
谷口 恭子

2000年に渡米。アメリカ・サクラメントのルドルフ・シュタイナーカレッジで、基礎コース、教員養成コース受講、2002年5月卒業。2003年4月よりシュタイナー学園にて8年間の担任として勤務。現在、シュタイナー学園2年生クラス担任。

シュタイナー学園のお父さんQ&A

①入学の決め手はなんでしたか？
②通勤の様子を教えてください。
③お子さんの様子はどうですか？
④ご自身に変化はありましたか？
⑤藤野生活を教えてください。
⑥入学してよかったことは？
⑦藤野へ移住してよかったことは？

2年：亀山 圭太
（神奈川県茅ヶ崎市から移住。目黒区へ通勤）

①妻は娘が産まれた頃から「子供はシュタイナー学園に通わせたい…」と呪文のように呟いていました。私は気がついたら藤野にいました。今振り返ってみると、どうなるか分からないところへ向かって行く気持ちが「未来」だという事を妻から教わりました。

③鼻炎が治りました。

④風邪を引かなくなりました。

⑤私は現在ウッドチップを作る工場に勤務しており、神奈川県内で伐採された木を扱っています。間伐材（杉、ヒノキ）、庭木、工場の敷地内にある緑地、街路樹と出どころはさまざまです。7年ほど前から自分で伐った木で器を作るようになりました。藤野に来てからも工場から丸太を貰って主に休日を利用して作っています。近所の人に頼まれて庭木を伐り、その木を器にしてプレゼントしたこともあります。妻がはじめた木の楽器作りも手伝ったりと、休日も木に携わっていることが多いです。

4年：吉澤 健吾
（長野県大町市から移住。清川村へ通勤）

①かねてからシュタイナー教育の内容に深く感銘を受けていました。藤野の豊かな自然環境も理想的でした。

②距離が長くて、正直楽ではありません。効率的な乗り継ぎのパターンを調べ、移動時間の負担を減らすよう工夫しています。座席を確保できるときは調べ物や音楽、瞑想などの時間として、できるだけ充実させ楽しむようにしています。

④教育内容に対して理解することで、子どもの発育過程を深く観察できるようになりました。また藤野の山里での生活で、心身が快活になっていると感じます。

⑥子どもの個性を大事にし、潜在的な側面を重視する教育の有りように共感し、信頼が深まっています。そして藤野という自然豊かな環境の中でたくましく生活できていることは家族にとっても貴重だと考えます。

5年：
馬場 睦
（文京区根津から移住。早稲田へ通勤）

②5年目にしてだいぶ慣れてきました。週にだいたい2～3冊のペースで本を読んでいます。後は寝ていますが、本を読む時間ができることは本当にありがたいです。

④藤野に来るまではかなり個人主義的な考え方でしたが、学園の先生や親御さんたち、地域のかたがたに受け入れていただいて、感謝とともに自らも共感の心を広げられるようになったとありがたく感じています。

⑤学園の先生に求められて、自分の趣味である太極拳を少し教えています。また学園のさまざまな活動、コーラスやママさんバレーボール、駅伝や田んぼの会等に参加させていただき、交流を楽しんでいます。それ以外は、ほぼ薪活動をしているか、家の修理もしくは何かを作っています。

8年：清水 淳
（武蔵野市へ通勤）

①教育方針です。知識詰め込み型やプログラミング教育の導入などが他の教育機関で重視されていることには以前から疑問を感じていました。シュタイナー学園の体験授業への参加を通して、単なる知識ではなく、その奥にある深い学びができるのではないかと考え、入学を決めました。

②通常、藤野駅から7時台後半の電車に乗り、座ることができるので、趣味に関する勉強をしたり、睡眠の時間に充てたりしています。私の場合、仕事とプライベートの切り替えのきっかけが必要なので、通勤は大切な時間です。

⑦藤野には似た価値観を持つ人たちが多く、やってみたい活動がすぐに実現できることが良かったと考えています。移住して6年目になりますが、米作り、薪割り、DIY、気軽にBBQ&キャンプなど、やってみたいと思っていたことが実現できていることがうれしいです。